

はじめての人も、やったことある人も、さあ書こう、さあ応募しよう



障がいのある人の生活・思い・想像を演劇台本に

みんなが書く 戯曲のコンテスト

作品
募集

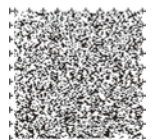
応募規定

以下の①または②のどちらかであれば、どなたでも作品をご応募いただけます。

① 物語に障がい者が登場する作品

② 障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)の交付を受けている方が書いた作品

※選考が進んだ段階で、障害者手帳による確認をさせていただきます



(音声コード Uni-Voice)

コンテスト4年目の実施にあたって

2026年度も本コンテストの実施をみなさんにお知らせできることをうれしく思います。障がいのある人が書いたか、障がいのある人が登場する短編戯曲という未知のジャンルに、どれだけの応募があるのかという手探り感の中2023年に始めた本コンテストでしたが、初年度が244作品、2024年度が192作品、2025年度が191作品の応募がありました。障がいの当事者の方やご家族、サポートされる方などの多様な経験を踏まえた新鮮で切実な声がたくさん届いています。昨年は日常のスケッチのようなものに加えて、非日常的な設定のファンタジーや、コメディ的なもの、障がいを切り口に社会の過去を掘り下げる作品なども出てきており、毎年選考が楽しく、そして難しくなっています。

一次選考通過者を対象にプロ劇作家が作品のブラッシュアップを支援する「伴走支援」(2024年度より実施)は確実に成果を上げており、昨年度の報告書には、その過程を収めることもできました。本コンテスト入選以上の作品を用いて行う、国内各地でのリーディング上演(出演者が台本を手に持ち、ほとんど動きをつけないで行う上演)は2024年度初めて行い、6箇所で開催し、各地の演劇人、観客に新鮮な喜びを持って迎えられました。国内だけではなく、本事業の協力者である米国NY州のクイーンズシアターでも、本コンテスト最優秀作等のリーディング上演が実施され、こちらも大好評でした。

毎年、このステートメントでお伝えしていることですが、障がいは、いわゆる障がい者とされる人そのものにあるのではなく、その人と他者＝社会との間に生まれるものです。人の関係の中に障がいは生まれます。とするなら、それを扱うのに戯曲ほど優れた方法はありません。戯曲は、言葉を通じて、人と人の間に生まれる怒り、苛立ち、差別意識、つながる喜びなど、多様な心の模様を描くものです。このコンテストを通じて、多くの人が「障がい」を軸とする様々な人間関係を浮かび上がらせ、それが報告書やリーディング上演等を通じて社会の少しでも遠くまで広がっていくことは、分断が進んでいこうとしている日本社会にとっても非常に大きな意味を持つと確信しています。また、新しい戯曲作家の発見の場となることもこのコンテストの重要な狙いです。文字入力のための多様な方法が可能になっている現在の状況の中、いろいろな方に応募していただき、新しい才能に出会いたいと関係者一同、切に思っています。

本年度より、プロフェッショナル部門を新設しました。これには二つの意味があります。経験と実績のある作家にもこのコンテストに応募してもらうことで、よりインパクトの強い作品を得て、もっと社会にインパクトを与えたい。そしてもう一つ、プロ作家の応募が、初めて作品を書いて応募する多くの作家の入選機会を奪わないようにすること。プロ部門の新設は、コンテスト実施の狙いを、「多くの人の声を戯曲という形で聞く」「初めて書く人も大歓迎」という従来のものから変更するものでないことは、ぜひご理解ください。初めて書く人のための、あるいはほぼ初めてという方のための、あるいは書いたことあるけど今一步自信がないという人のための、動画によるサポートもあります。今年は、より基本的な書き方の形式についてのコンテンツを追加予定です。

もちろんプロの方の応募にも期待しています。日本では30分でも短編戯曲と言われる状況の中で、本コンテストの5分から10分程度という長さは、「短い!」と思われるかもしれませんが、切れ味のいいものを応募してください。参加エントリーしていただき、選考委員でもあるアメリカ人劇作家ロブさんの動画を見ていただくと、「なるほど」と思っていただけるのではないかと思います。

最終選考委員 (五十音順)



大澤真幸 (社会学者)

社会学者。1958年長野県生まれ。東京大学大学院社会学研究科修了。社会学博士。千葉大学文学部助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科教授等を歴任。著書に『身体の比較社会学』（勁草書房）、『ナショナリズムの由来』（講談社、毎日出版文化賞）、『〈自由〉という牢獄』（岩波書店、河合隼雄学芸賞）、『〈世界史〉の哲学』シリーズ（講談社）、『資本主義の〈その先〉へ』（筑摩書房）等。共著に『ふしぎなキリスト教』（講談社、中央公論新書大賞）等。個人思想誌『THINKING「O」』（左右社）主宰。



岡部太郎 (一般財団法人たんぼぼの家理事長)

1979年群馬県前橋市生まれ。美術大学在学中に障害のある人の芸術文化活動に触れ、多様な人たちが豊かに生きる社会のデザインを实践したいという思いから、20年以上にわたり奈良のたんぼぼの家で働く。あたらしいアートの可能性を探る「エイブル・アート・ムーブメント」やこれからのものづくり、はたらき方を模索する「Good Job!プロジェクト」の推進をしている。また、アートプロジェクト・舞台公演などの企画制作や障害とアートにまつわる相談支援に取り組みなど、障害のある人の創造性と異分野をつなげる橋渡しをしている。



中島諒人 (演出家・鳥の劇場芸術監督)

1966年生。東京大学法学部卒業。大学在学中より演劇活動開始。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。2006年より鳥取で廃校を劇場に変え、鳥の劇場を創立。二千年以上の歴史を持つ文化装置＝演劇の本来の力を社会に示し、演劇／劇場の深い価値が広く認識されることを目指す。芸術的価値の追究と普及活動を両輪に、地域振興や教育にも関わる。2003年利賀演出家コンクール最優秀演出家賞。2010年芸術選奨文部科学大臣新人賞。BeSeTo演劇祭日本委員会代表。



永山智行 (演出家・劇作家・劇団こぶく劇場代表)

1967年生。劇作家、演出家。宮崎県の三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こぶく劇場代表。2001年『so bad year』でAAF戯曲賞受賞。2006年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場演劇ディレクターも務めた。2007年からは劇団として、障害者も一俳優として参加する作品づくり(みやざき◎まあるい劇場)をはじめ、質の高さ、活動の社会的な広がり、その両面から高く評価されている。2022年4月に初の戯曲集「ロマンス／いきたひと／猫を探す」(而立書房)を刊行。



森田かずよ (義足の女優・ダンサー)

先天性の障害を持って生まれ、18歳より表現の世界へ。ダンサー、俳優として活動。近年は障害のある人を含めた多様な人とのワークショップやダンス公演の演出を行う。東京2020パラリンピック開会式にソロダンサーとして出演。福祉をたずねるクリエイティブマガジン「ここ」にて「森田かずよのクリエイションノート」を連載中。大阪大学人文学研究科博士後期課程在籍中。2022年度 舞台芸術国際共同制作オブザーバー。「Performance For All People.CONVEY」主宰。NPOピースポット・ワンフォー理事長。



ロブ・ウルピナーティ (劇作家・クイーンズシアター[アメリカ・NY])

ニューヨークを拠点に活動するフリーランスの演出家・作家。これまでにサミュエル・フレンチ、ネクストステージプレスなどから戯曲が出版され、世界中で200回以上上演されている。クイーンズシアターのニュー・プレイ・ディベロップメントディレクターを務めており、ドラマティスト・ギルドの会員でもある。ドラマリーグディレクターカウンシルのメンバーであり、オーディオディスクリプション・インスティテュートの認定も受けている。

一次選考委員および伴走支援担当



撮影：五味 明彦

大岡淳 (劇作家・演出家・批評家)

劇作家・演出家・批評家。1970年兵庫県生まれ。早稲田大学第一文学部哲学学科哲学専修卒業。現在、SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフ、株式会社ゼロメガ相談役、武久出版株式会社編集部顧問、河合塾コスモ講師を務める。主要戯曲作品に、劇団渡辺『帝国』（渡辺亮史演出／2010年）、SPAC『王国、空を飛ぶ!』（大岡淳演出／2015年）、SPAC『1940 ーリヒャルト・シュトラウスの家ー』（宮城聡演出／2017年）など。翻訳戯曲に、ベルトルト・ブレヒト作『三文オペラ』（共和国刊／2018年）がある。



坂本鈴 (劇作家・演出家／劇団だるめしあん代表・劇作家女子会。リーダー)

1982年熊本県生まれ。昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、尚美学園大学、日本大学芸術学部の四つの大学で非常勤講師を務める。戯曲『あの子の飴玉』で部落解放文学賞戯曲部門入賞。女性の性をめぐる問題をポップかつ鋭い視点で描く作風が特徴で、中学・高校演劇大会の審査員として教育面でも活動。WEB漫画の原作執筆など、多彩なフィールドで創作を展開中。



吉田小夏 (劇作家・演出家・青☆組 主宰)

東京で生まれ、横浜と鎌倉で育つ。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。『雨と猫といくつかの嘘』等、4作品で日本劇作家協会新人戯曲賞に入賞。『初雪の味』で日本演出者協会・若手演出家コンクール審査員特別賞を受賞。『海の五線譜』で北海道戯曲賞優秀賞受賞。『Butterflies in my stomach』で八頭高校演劇部の皆と（鳥の演劇祭8）に参加。一貫して市井の人々を描き、心の琴線に触れる美しく繊細な対話劇で、幅広い年代の支持を集める。NHKラジオドラマの脚本、児童演劇の創作、演劇教育のWS講師、等でも活躍。

はじめてでも安心!あなたの作品づくりをサポートします

公式ホームページでは「戯曲ってどうやって書くの?」という初心者の方に向けた動画をご用意しており、はじめての応募でも安心してチャレンジできます。また、一次選考を通過した方には、大岡淳さん、坂本鈴さん、吉田小夏さんら、第一線で活躍する劇作家がオンラインで作品づくりを一緒にサポートしてくれます。



作品受付期間

2026年8月1日(土)～9月30日(水)

※作品応募には9月23日(水・祝)までの事前エントリーが必要です。

スケジュール

2026年

- ・6月末 参加エントリー受付開始
- ・8月1日～9月30日 作品受付
- ・9月23日 エントリー締切
- ・10月 予備選考・一次選考
- ・11月～12月 選考通過作品へのプロ作家による伴走支援

入選作品リーディング全国各地公演

令和5・6・7年度に実施された「みんなが書く戯曲のコンテスト」の入選以上の作品から各地ごとに数本を取り上げ、それぞれの演出家、俳優がリーディング形式で公演を行います。公演情報は詳細が決まり次第、「新着情報」にて随時発信します。

2027年

- ・1月 最終選考
- ・2月21日 表彰式・リーディング発表会(鳥取県・鳥の劇場にて)

応募規定

本コンテストには **レギュラー部門** と **プロフェッショナル部門(新設)** の2部門があります。

いずれの部門も、以下の①または②のどちらかに該当する作品であればご応募いただけます。

- ① 物語に障がい者が登場する作品
 - ② 障害者手帳(身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳)の交付を受けている方が書いた作品
- ※ 選考が進んだ段階で、障害者手帳による確認をさせていただきます

レギュラー部門

条件①または②を満たす方であれば、どなたでもご応募いただけます。最優秀、優秀、入選作品を選びます。

プロフェッショナル部門(新設)

プロ劇作家を自認する方を対象とした部門です。上記条件①または②を満たす必要があります。最優秀作品のみを選びます。プロフェッショナル部門で選ばれた最優秀作品には、ロブ・ウルビナーティ、中島諒人によるコメントとコンテストで制作した英訳を提供します。また、作品は鳥の劇場・クイーンズシアター(NY)での、リーディングに限らない上演の候補となります。

【共通規定】

- ・ 上演時間 5分～10分程度 の短編戯曲を募集します。作品が明らかに長いものは選考から除外することがありますので、上演時間は応募前にご自身でト書きも含めて音読してご確認ください。
- ・ オリジナル、未発表、未上演の日本語による作品に限ります。
- ・ 他の戯曲・小説・映画などから引用した場合は、その作品名と引用箇所を明記してください。
- ・ 入選作品は、2027年2月の表彰式で鳥の劇場にてリーディング上演されます。
- ・ 入選作品は、鳥の劇場または全国各地のパートナー団体がおこなうリーディング上演の候補となります。
- ・ 入選作品は、原稿料のお支払い、事業の記録集への掲載を予定しています。
- ・ 一次選考通過作品は英訳され、2027年のNY・クイーンズシアターでのリーディング上演の候補となります。

参加方法

作品は、受付期間中にメール・郵送・持ち込みのいずれかで受け付けます。

応募のための詳細をお送りしますので、まずはお気軽に事前エントリーをお願いします。

[エントリーフォーム >>](#)



本事業についてのお問い合わせ先

「戯曲コンテスト」事務局 〒680-0031 鳥取市本町1丁目201 ミュトスビル2階

@gikyoku.disability

@gikyoku_d

TEL・FAX: 0857-30-0676 E-mail: gikyoku.disability@gmail.com

@gikyoku.disability

ホームページでは、新着情報のほか、戯曲制作のためのチュートリアル動画を公開しています >>

<https://www.birdtheatre.org/gikyoku-disability/>



はじめてでも安心!あなたの作品づくりをサポートします

公式ホームページでは「戯曲ってどうやって書くの?」という初心者の方に向けた動画をご用意しており、はじめての応募でも安心してチャレンジできます。また、一次選考を通過した方には、大岡淳さん、坂本鈴さん、吉田小夏さんら、第一線で活躍する劇作家がオンラインで作品づくりと一緒にサポートしてくれます。



作品受付期間

2026年8月1日(土)～9月30日(水)

※作品応募には9月23日(水・祝)までの事前エントリーが必要です。

スケジュール

2026年

- ・6月末 参加エントリー受付開始
- ・8月1日～9月30日 作品受付
- ・9月23日 エントリー締切
- ・10月 予備選考・一次選考
- ・11月～12月 選考通過作品へのプロ作家による伴走支援

入選作品リーディング全国各地公演

令和5・6・7年度に実施された「みんなが書く戯曲のコンテスト」の入選以上の作品から各地ごとに数本を取り上げ、それぞれの演出家、俳優がリーディング形式で公演を行います。公演情報は詳細が決まり次第、「新着情報」にて随時発信します。

2027年

- ・1月 最終選考
- ・2月21日 表彰式・リーディング発表会(鳥取県・鳥の劇場にて)

応募規定

本コンテストには**レギュラー部門**と**プロフェッショナル部門(新設)**の2部門があります。

いずれの部門も、以下の①または②のどちらかに該当する作品であればご応募いただけます。

- ① 物語に障がい者が登場する作品
- ② 障害者手帳(身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳)の交付を受けている方が書いた作品
※ 選考が進んだ段階で、障害者手帳による確認をさせていただきます

レギュラー部門

条件①または②を満たす方であれば、どなたでもご応募いただけます。最優秀、優秀、入選作品を選びます。

プロフェッショナル部門(新設)

プロ劇作家を自認する方を対象とした部門です。上記条件①または②を満たす必要があります。最優秀作品のみを選びます。プロフェッショナル部門で選ばれた最優秀作品には、ロブ・ウルビナーティ、中島諒人によるコメントとコンテストで制作した英訳を提供します。また、作品は鳥の劇場・クイーンズシアター(NY)での、リーディングに限らない上演の候補となります。

【共通規定】

- ・ 上演時間 5分～10分程度 の短編戯曲を募集します。作品が明らかに長いものは選考から除外することがありますので、上演時間は応募前にご自身で書きも含めて音読してご確認ください。
- ・ オリジナル、未発表、未上演の日本語による作品に限ります。
- ・ 他の戯曲・小説・映画などから引用した場合は、その作品名と引用箇所を明記してください。
- ・ 入選作品は、2027年2月の表彰式で鳥の劇場にてリーディング上演されます。
- ・ 入選作品は、鳥の劇場または全国各地のパートナー団体がおこなうリーディング上演の候補となります。
- ・ 入選作品は、原稿料のお支払い、事業の記録集への掲載を予定しています。
- ・ 一次選考通過作品は英訳され、2027年のNY・クイーンズシアターでのリーディング上演の候補となります。

参加方法

作品は、受付期間中にメール・郵送・持ち込みのいずれかで受け付けます。

応募のための詳細をお送りしますので、まずはお気軽に事前エントリーをお願いします。

[エントリーフォーム](#) >>



本事業についてのお問い合わせ先

「戯曲コンテスト」事務局 〒680-0031 鳥取市本町1丁目201 ミュースビル2階 [@gikyoku.disability](#) [@gikyoku_d](#)

TEL・FAX: 0857-30-0676 E-mail: gikyoku.disability@gmail.com [@gikyoku.disability](#)

ホームページでは、新着情報のほか、戯曲制作のためのチュートリアル動画を公開しています >>

<https://www.birdtheatre.org/gikyoku-disability/>



文化庁委託事業「令和8年度障害者等による文化芸術活動推進事業」 主催：文化庁 鳥の劇場 制作：鳥の劇場

はじめての人も、やったことある人も、さあ書こう、さあ応募しよう



障がいのある人の生活・思い・想像を演劇台本に

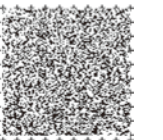
みんなが書く 戯曲のコンテスト

作品
募集

応募規定

以下の①または②のどちらかであれば、どなたでも作品をご応募いただけます。

- ① 物語に障がい者が登場する作品
- ② 障害者手帳(身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳)の交付を受けている方が書いた作品
※ 選考が進んだ段階で、障害者手帳による確認をさせていただきます



(音声コード Uni-Voice)

コンテスト4年目の実施にあたって

2026年度も本コンテストの実施をみなさんにお知らせできることをうれしく思います。障がいのある人が書いたか、障がいのある人が登場する短編戯曲という未知のジャンルに、どれだけの応募があるのかという手探り感の中2023年に始めた本コンテストでしたが、初年度が244作品、2024年度が192作品、2025年度が191作品の応募がありました。障がいの当事者の方やご家族、サポートされる方などの多様な経験を踏まえた新鮮で切実な声がたくさん届いています。昨年は日常のスケッチのようなものに加えて、非日常的な設定のファンタジーや、コメディー的なもの、障がいを切り口に社会の過去を掘り下げる作品なども出てきており、毎年選考が楽しく、そして難しくなっています。

一次選考通過者を対象にプロ劇作家が作品のブラッシュアップを支援する「伴走支援」(2024年度より実施)は確実に成果を上げており、昨年度の報告書には、その過程を収めることもできました。本コンテスト入選以上の作品を用いて行う、国内各地でのリーディング上演(出演者が台本を手に持ち、ほとんど動きをつけずに上演)は2024年度初めて行い、6箇所で開催し、各地の演劇人、観客に新鮮な喜びを持って迎えられました。国内だけではなく、本事業の協力者である米国NY州のクイーンズシアターでも、本コンテスト最優秀作等のリーディング上演が実施され、こちらも大好評でした。

毎年、このステートメントでお伝えしていることですが、障がいは、いわゆる障がい者とされる人そのものにあるのではなく、その人と他者＝社会との間に生まれるものです。人の関係の中に障がいは生まれます。とするなら、それを扱うのに戯曲ほど優れた方法はありません。戯曲は、言葉を通じて、人と人の間に生まれる怒り、苛立ち、差別意識、つながる喜びなど、多様な心の模様を描くものです。このコンテストを通じて、多くの人が「障がい」を軸とする様々な人間関係を浮かび上げさせ、それが報告書やリーディング上演等を通じて社会の少しでも遠くまで広がっていくことは、分断が進んでいこうとしている日本社会にとっても非常に大きな意味を持つと確信しています。また、新しい戯曲作家の発見の場となることもこのコンテストの重要な狙いです。文字入力のための多様な方法が可能になっている現在の状況の中、いろいろな方に応募していただき、新しい才能に出会いたいと関係者一同、切に思っています。

本年度より、プロフェッショナル部門を新設しました。これには二つの意味があります。経験と実績のある作家にもこのコンテストに応募してもらうことで、よりインパクトの強い作品を得て、もっと社会にインパクトを与えたい。そしてもう一つ、プロ作家の応募が、初めて作品を書いて応募する多くの作家の入選機会を奪わないようにすること。プロ部門の新設は、コンテスト実施の狙いを、「多くの人の声を戯曲という形で聞く」「初めて書く人も大歓迎」という従来のものから変更するものでないことは、ぜひご理解ください。初めて書く人のための、あるいはほぼ初めてという方のための、あるいは書いたことあるけど今一歩自信がないという人のための、動画によるサポートもあります。今年は、より基本的な書き方の形式についてのコンテンツを追加予定です。

もちろんプロの方の応募にも期待しています。日本では30分でも短編戯曲と言われる状況の中で、本コンテストの5分から10分程度という長さは、「短い!」と思われるかもしれませんが、切れ味のいいものを応募してください。参加エントリーしていただき、選考委員でもあるアメリカ人劇作家ロブさんの動画を見ていただくと、「なるほど」と思っていただけのではないかと思います。

鳥の劇場芸術監督 中島諒人

最終選考委員 (五十音順)



大澤真幸 (社会学者)

社会学者。1958年長野県生。東京大学大学院社会学研究科修了。社会学博士。千葉大学文学部助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科教授等を歴任。著書に『身体の比較社会学』(勁草書房)、『ナショナリズムの由来』(講談社、毎日出版文化賞)、『〈自由〉という牢獄』(岩波書店、河合隼雄学芸賞)、『〈世界史〉の哲学』シリーズ(講談社)、『資本主義の〈その先〉へ』(筑摩書房)等。共著に『ふしぎなキリスト教』(講談社、中央公論新書大賞)等。個人思想誌『THINKING「O」』(左右社)主宰。



岡部太郎 (一般財団法人たんぼぼの家理事長)

1979年群馬県前橋市生まれ。美術大学在学中に障害のある人の芸術文化活動に触れ、多様な人たちが豊かに生きる社会のデザインを実践したいという思いから、20年以上にわたり奈良のたんぼぼの家で働く。あたらしいアートの可能性を探る「エイブル・アート・ムーブメント」やこれからのものづくり、はたらき方を模索する「Good Job!プロジェクト」の推進をしている。また、アートプロジェクト・舞台公演などの企画制作や障害とアートにまつわる相談支援に取り組むなど、障害のある人の創造性と異分野をつなげる橋渡しをしている。



中島諒人 (演出家・鳥の劇場芸術監督)

1966年生。東京大学法学部卒業。大学在学中より演劇活動開始。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。2006年より鳥取で廃校を劇場に変え、鳥の劇場を創立。二千年以上の歴史を持つ文化装置＝演劇の本来の力を社会に示し、演劇/劇場の深い価値が広く認識されることを目指す。芸術的価値の追求と普及活動を両輪に、地域振興や教育にも関わる。2003年利賀演出家コンクール最優秀演出家賞。2010年芸術選奨文部科学大臣新人賞。BeSeTo演劇祭日本委員会代表。



永山智行 (演出家・劇作家・劇団こぶく劇場代表)

1967年生。劇作家、演出家。宮崎県の三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こぶく劇場代表。2001年『so bad year』でAAF戯曲賞受賞。2006年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場演劇ディレクターも務めた。2007年からは劇団として、障害者も一俳優として参加する作品づくり(みやざき◎まあるい劇場)をはじめ、質の高さ、活動の社会的な広がり、その両面から高く評価されている。2022年4月に初の戯曲集「ロマンス／いきたひと／猫を探す」(而立書房)を刊行。



森田かずよ (義足の女優・ダンサー)

先天性の障害を持って生まれ、18歳より表現の世界へ。ダンサー、俳優として活動。近年は障害のある人を含めた多様な人とのワークショップやダンス公演の演出を行う。東京2020パラリンピック開会式にソロダンサーとして出演。福祉をたずねるクリエイティブマガジン「ここ」にて「森田かずよのクリエイションノート」を連載中。大阪大学人文学研究科博士後期課程在籍中。2022年度 舞台芸術国際共同制作オブザーバー。「Performance For All People.CONVEY」主宰。NPOピースポット・ワンフォー理事長。



ロブ・ウルビナーティ (劇作家・クイーンズシアター[アメリカ・NY])

ニューヨークを拠点に活動するフリーランスの演出家・作家。これまでにサミュエル・フレンチ、ネクストステージプレスなどから戯曲が出版され、世界中で200回以上上演されている。クイーンズシアターのニュー・プレイ・ディベロップメントディレクターを務めており、ドラマティスト・ギルドの会員でもある。ドラマリーグディレクター・カウンシルのメンバーであり、オーディオディスクリプション・インスティテュートの認定も受けている。

一次選考委員および伴走支援担当



大岡淳 (劇作家・演出家・批評家)

劇作家・演出家・批評家。1970年兵庫県生まれ。早稲田大学第一文学部哲学科哲学専修卒業。現在、SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフ、株式会社ゼロメガ相談役、武久出版株式会社編集部顧問、河合塾コスモ講師を務める。主要戯曲作品に、劇団渡辺『帝国』(渡辺亮史演出/2010年)、SPAC『王国、空を飛ぶ!』(大岡淳演出/2015年)、SPAC『1940 ーリチャルト・シュトラウスの家ー』(宮城聡演出/2017年)など。翻訳戯曲に、ベルトルト・ブレヒト作『三文オペラ』(共和国刊/2018年)がある。



坂本鈴 (劇作家・演出家/劇団だるめしあん代表・劇作家女子会。リーダー)

1982年熊本県生まれ。昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、尚美学園大学、日本大学芸術学部の四つの大学で非常勤講師を務める。戯曲『あの子の鉛玉』で部落解放文学賞戯曲部門入賞。女性の性をめぐる問題をポップかつ鋭い視点で描く作風が特徴で、中学・高校演劇大会の審査員として教育面でも活動。WEB漫画の原作執筆など、多彩なフィールドで創作を展開中。



吉田小夏 (劇作家・演出家・青☆組 主宰)

東京で生まれ、横浜と鎌倉で育つ。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。『雨と猫といくつかの嘘』等、4作品で日本劇作家協会新人戯曲賞に入賞。『初雪の味』で日本演出者協会・若手演出家コンクール審査員特別賞を受賞。『海の五線譜』で北海道戯曲賞優秀賞受賞。『Butterflies in my stomach』で八頭高校演劇部の皆と(鳥の演劇祭8)に参加。一貫して市井の人々を描き、心の琴線に触れる美しく繊細な対話劇で、幅広い年代の支持を集める。NHKラジオドラマの脚本、児童演劇の創作、演劇教育のWS講師、等でも活躍。